

まんが王国・土佐推進協議会 平成 28 年度第 2 回総会（概要）

日 時：平成 29 年 2 月 13 日（月）14:00～16:00

場 所：高知城ホール 2 階 中会議室

出席者：まんが王国・土佐推進協議会委員 17 名（うち代理出席 5 名）、監事 2 名

（1）報告事項

事務局から次の報告事項について報告があり、承認された。

第 1 号報告 平成 28 年度（下半期）「まんが王国・土佐」ブランド化の推進及びコンテンツ産業振興の取組について

<まんが王国関係>

- ・第 3 回全国漫画家大会議 in まんが王国・土佐の概要
- ・平成 28 年度高知家まると海外情報発信事業の状況
- ・平成 28 年度まんが王国・土佐ポータルサイトの運営状況
- ・平成 28 年度まんが教室の開催状況
- ・平成 28 年度まんがを活かした「コンテンツ創造教育」の推進状況

<コンテンツ産業関係>

- ・コンテンツ産業クラスター形成に向けた取り組み

（2）議事

事務局から次の議案について説明があり、承認された。

第 1 号議案 平成 28 年度まんが王国・土佐推進協議会収支決算見込

第 2 号議案 平成 29 年度まんが王国・土佐推進協議会事業計画及び収支予算

<まんが王国関係>

- ・第 4 回全国漫画家大会議 in まんが王国・土佐について
- ・電停まんがによるおもてなし推進事業について

<コンテンツ産業関係>

- ・【土佐 MBA】アプリ開発人材育成講座<基礎技術編&応用編>について
- ・首都圏における高知 IT・コンテンツネットワークの構築について

第 1 号議案 平成 28 年度まんが王国・土佐推進協議会収支決算見込について

承認

第 2 号議案 平成 29 年度まんが王国・土佐推進協議会事業計画及び収支予算について

<まんが王国関係>

【A 委員】

○まんがを活かした教材づくりは、まんがの文化の拡大という意味では大変期待している。

○横山隆一記念まんが館では来年、黒江 S 介先生の「サムライせんせい」を村上もとか展と同様に、まんが・

コンテンツ課と協働したうえで共催というような形で開催できるように考えており、是非、こういった協働できる部分を更に開拓していきたい。

【吉村部会長】

- ポータルサイトについて、まんが甲子園の結果発表のタイミングは閲覧数がものすごく多いが、その他の月を伸ばしていくためにどうするか。
- 平成 27 年度の 2 月がかなり伸びており、その伸びた理由を活かしていければ、他の月も増えるではないか。
- 全国の認知度を上げていくと、ポータルサイトの訪問者も閲覧者も増えて、まんが王国・土佐の PR につながる。

【事務局長】

- 平成 27 年度の 2 月に急激に伸びているのは、漫画家大会議の関係でインターネット広告を行ったことによるものです。
- その他、記事を頻繁に作成し掲載する、SNS を活用し情報を発信するという取組を継続して行っている。これから大会議の関係で、さらに露出を高めていきたいと考えています。

【B 委員】

- 県内で講演会をする際、「まんが王国」、「まんが甲子園」のことを聞くと知っている人がほとんどだが、「漫画家大会議」について聞くと誰も知らない。これはもったいないなという反面、これから頑張って続けていくことで、素晴らしい伸びしろがあるなというふうに感じている。
- 漫画家大会議で、多くの漫画家さんのネットワークができたことは一番嬉しいことで、全国の漫画家さんが高知を好きになってくれることが一番の夢です。
- 漫画家大会議は何か足りないというのがどうしても拭えなくて、何かひとつでも、その手があったか、みたいな、いかにもまんがチックなものがあればと感じている。

【事務局長】

- 漫画家大会議については、とにかく認知度を上げていくことが、非常に重要だと考えています。インターネット広告の話もしましたが、今後、県内、県外の方に向けたテレビ広告も打って、高知はまんが文化が非常に盛んだということを知っていただくための取組を進めていきたいと考えています。
- 今年度は 1 ヶ月の原画展ということでチャレンジしましたが、まだまだ足りない部分もあるとは思っておりまして、創意工夫を重ねながら日々業務をしているところであります。

【尾崎会長】

- 漫画家大会議を通じて、この素晴らしいまんが文化というのを多くの皆さんに知っていただきたい。漫画家の先生方とのネットワークを作り、高知を好きになっていただくことで、それが高知の発信力の強化につながっていけばと思いますし、また、こういう機会を通じて、漫画家を志そうという人達が増えてきてくてもいいなと思いますし、色んな意味での良き機会になればと思います。
- コンテンツ創造教育の推進は、まんがというものを正面から学校教育の中で取り上げ、創造的なコンテンツを使いこなせる人材の育成ということに取り組んでいこうとするもので、単年単年の効果は小さいかもしれませんが、これが積み重なっていった先においては非常に大きな効果を生み出す事業ではないかなと思います。
- こういう取組をスタートすることと併せて、若い人達を養成していく上手い仕掛けをもう 1 枚、2 枚加えていくことで、B 委員が言われる何か足りないということに対応できるのではと感じます。

○高知が本格的に創作に取り組める場となって、将来、県内だけじゃなくて全国から漫画家になりたい若者達が集まって、高知県がトキワ荘みたいになっていければ、本当に素晴らしいと思いますね。是非そういう方向で考えをめぐらせていきたいと思いますので、よろしく願いをいたします。

【C 委員】

○Tastes of JAPAN という高知紹介のプログラムをやるということで、先日、NHK WORLD TV で放送された番組（教えて！熱血高知！）を5月から国際航空路線の機内で放送させていただく予定です。

○まんが甲子園で、今年、韓国、台湾、シンガポールから生徒さんを招聘するという中で、県のイベントということで本部とかけあい、何か運賃的にご協力をさせていただけないかと思っております。

【D 委員】

○漫画家大会議について、一度来られた漫画家の方には、来られないとしても案内は必ず送る。

来てくれた経験のある漫画家をどんどん増やして、漫画家の会議の時に、「高知は良かったで。酒もう良かったし食べ物もう良かった。」とすることもまんが王国・土佐の1つの発信の仕方だと思います。

【E 委員】

○日常的に、高知のものに触れた時、まんがを感じられるようにしていくことが、まんが王国・土佐というイメージを日本国内はもとより世界に植えつけていけるかなと思います。

企業も含めて協力してもらいながら、パンフレットや名刺、自社の製品説明の中に、まんがが組み込まれていけばもっと日常的に、まんが王国・土佐、ということが伝わっていくのではないかと思います。

【吉村部会長】

○いま、オリンピックに来る世界中の選手は大体若く、まんが・アニメが好きです。自分のことを描いたまんがやイラストをツイッターなどでシェアして発信するという情報発信の仕方があります。

○2020年までに、オリンピック選手の絵を、ネットワークのある漫画家さん達にお願いをしてみる。それをポータルサイトで掲載をして、発信することによって、選手達が、気に入ったものをシェアすると思う。

【F 委員】

○コンテンツ創造教育の試作品ができたということなので、是非見させてもらって、どういうふうに活用できるかを考えていきたいと思います。

○岡豊高校に芸術科があって、まんが甲子園とかに例年参加して、賞もいただいたりしていますが、来年の芸術科の応募状況が定員に達していないみたいなことがあるので、そういうところのテコ入れということで、何かこの取組とタイアップできる部分もあるんじゃないかなということも、少し感じたので、また、関係課と色々と相談させていただいたらと思います。

【G 委員】

○中山間対策で、まんがをどう活用するかみたいなことを1つの柱にすると、色んな情報発信になり、そのものが地域活性化につながると思います。

○コンテンツツーリズムとかアニメツーリズム、まんが等を活用した新しい観光が起こっていますから、そういった非常に幅広い観点での議論、検討をいただければ。

特に中山間は非常に厳しく、まんがといってもなかなか支持ができない。地域が支持しないと、まんが王国自体が維持できないと思いますので、地域の方が賛同する、協力する、参加するような新しい取組などご検討いただければありがたいと思います。

【H 委員】

○まんが王国・土佐という形の情報発信は、高知県観光コンベンション協会でも足りなかったかなという反省を持っています。今、よさこいネットを改修中ですが、まんが王国というところをもう少し十分取り上げさせていたいただきたいので、担当同士でもっと努力をしていきたいと考えております。

【尾崎会長】

- 縣市連携図書館が立ち上がり、現県立図書館の空いたスペースを耐震強化等々していったら、そちらを公文書館として使うとともに、まんが甲子園の作品の保管及び展示機能を持たせていこうと考えております。
- 横山隆一記念まんが館さんが、高知市の中心商店街の東に、そして、まんが甲子園の事実上の記念館としての機能を持つことになるこちらが中心商店街の西側に位置するという形で、東西にまんが関係の施設を置いていくことができればと。
- 引き続きソフト重視でいながら、既存施設もうまく活かして、そういう連携したトータルの合わせ技でもって、もう一段進化したまんが王国・土佐推進の政策を練っていききたいと考えております。

【I 委員】

○コンテンツ創造教育に関しては、四コマ漫画を作るだけでもアイデアが必要で、そこから、まとめる力、伝えてアピールする力、要は、社会に出ても生きていける力を醸成する入口になるかもしれない取組になればいいなと思います。

【J 委員】

- 3月の時期は、やはり中学生も高校生も受験に向かっていて、なかなか漫画家大会議に行けない事情があります。漫画家大会議は、もう年齢層をぐっと上げていただいて、そっちに特化してかっちりやっていただいたらというような思いもしながら、これから続いていく中で、また違った部分が出てくるかもしれないかなというふうに思っております。
- OECD33ヶ国の中で日本の学力が落ちてきたというところで、文科省が対応策として打ち出してきたのが言語活動です。文科省はの中で、例えば数式も言語活動の一種と認めると。ただ、漫画を言語活動の一種と認めるという文言はまだ見たことがありませんが、今後、必ずこういうものも入ってくると思います。
- まんが甲子園のようにテーマに対して答えを出していくという中には、必ず自分で考える、感じる、思う、話すという探求的な部分があって、作品には与えられたテーマ、課題をどう解決して、自分達はこう生きていくんだということが示されている。そのあたりは、社会へ出ても絶対に必要な力だと思います。
- 最近、社会を見つめ勉強させようという機運が非常に高くなっており、まんがコンテンツという分野に限ると、まだ広がっていないように思いますが、そのうち、この分野にも生徒達が入ってくるようになると思いますので、その節は是非よろしくお願ひしたいと思ひます。

【B 委員】

- 漫画家大会議について、何か足りないと言ったのは、漫画家大会議自体はものすごく良くできていることで、これをまんがに例えたら、本当にしっかりしたストーリーとすごく上手な絵だけれど、30万部、100万部と売ろうと思ったら、そこに何か強烈な個性が必要。主人公の魅力なのか、何かものすごく印象に残る1つのアイテムであるとかが無いと、どうしても弱いところがある。
- 今年で一番面白いのは漫画家汁。これは面白いねって、ポンとひとつ思い浮かべるような個性ができる、テーマは毎年違ったとしても、すごく弾けるんじゃないかなという意味で言わせていただきました。

<コンテンツ産業関係>

【K 委員】

- 地域未来投資促進法案という法案の準備をしており、地域の特性を活かした成長性の高い新たな分野に挑戦する取組を応援していこうということで調整が進んでおります。
- 今まで成長の分野というかたちになっていましたが、農林水産、地域商社、さらには、第四次産業革命、観光・スポーツ・文化・まちづくりとヘルスケア・教育サービス、こういったものについても政策資源を集中投入して支援するかたちで、進んでいますので、コンテンツ産業の振興についても支援できると考えております。

【L 委員】

- 一番ご協力できるところは、ビジネスマッチングの部分だと考えています。
去年の11月に四国の地方銀行4行が協働して四国創生に取り組むということで、四国アライアンスと称する包括提携をし、目的としては、四国のブランド力を高めたり、あるいは四国全域で商圈を広げたりということを通じて、四国全体の活性化、底上げを図り、ひいては地元の高知県の成長につなげるということです。
- 興す、活かす、繋げる、育む、協働する、という5つのテーマのもと、立ち上げた分科会25のうちの1つにまちづくり分科会があり、このまちづくりということについて、資料9-2「電停まんがによるおもてなし推進事業」というところを、例えば四国遍路に置き換えて取り組むなど、そういったことを考えていきたいと議論しています。
- ブランディング分科会では、四国DMOをつくることも検討する中で、四国遍路の活性化でありますとか四国周遊ルートづくりとかにも取り組んでいきます。
その中で共通アプリを作ったり、色々コンテンツビジネスということで、今後連携して事業ができる可能性がさらにあると思っており、そういう取組を通じて連携を深めていけたらと思っております。

【C 委員】

- コンテンツの、移住とか興味のある方や、トライアルで高知に来られたり、どんなものか話を聞きたいという方について、移住のことも重なってきますが、高知に来やすい施策を、ツアーの割引等も含めて、思った時にすぐ来られるような体制を組んでいきたいと思っております。

【K 委員】

- コンテンツ産業へ目を向けている子ども達の育成というのをちょっと早い段階から取り組む必要があると思います。若いうちから、自県にこういう素晴らしい産業があるんだということを知らしめて、社長さんの思いであるとかをしっかりと伝えていく場を持てれば、もうちょっと自県の産業に着目してくれる。そのあたりの観点が今の取組では見えないので、ちょっとご検討いただければなと思います。

【事務局長】

- 大学で情報経営のカリキュラムを学んでいる学生でありますとか、専門学校でそういう情報系を学んでいる学生を中心に育成をしていきたい。
現状、情報系を学んだ生徒さんが、県内に受け皿が無いということで県外に行かれているという実態がありますが、企業立地が進み出し、そういう企業が徐々に集積をしてきて雇用も増えていることを説明しつつ、MBAの中でも、企業さんにプロジェクトマネージャーとして来ていただいて、受講生とマッチングをし、「将来、うちに採用したい」みたいな話も徐々に始まっております。
- 高校生、中学生、小学生、どこまでやっていくかということは、非常に悩んでいるところですが、来年度に関しては、即戦力のある人材の育成を進めていきたいですけれども、将来的には少しITとかコンテンツ人材が不足をするということもありますので、そういったことも踏まえて、県がどこまでやれるのかということ

ころも考えつつ検討していきたいと今は考えているところです。

【F 委員】

○コンテンツ産業ということではないですが、地域の産業を知ってもらうということについては、小学校の時から、地域の色々な取組に参加してもらう、あるいは地域の企業で就業体験をしてもらうというようなことをやっていますが、その中にコンテンツ産業系のものは、今のところ多くないと思います。可能な範囲で、今後考えていけたらどうかと思います。

【I 委員】

○コンテンツやWeb と親和性が高い観光、商業分野では、維新博とかオリンピックの開催、連携を契機にさらに深めて、どんどん活用していってほしいと思います。

○一見イメージが結びつき難い工業部門との連携、マッチングも、もっとできるのではと。例えばホームページで、県内事業者の中には、ただ作っただけで活かされていないことが多く、ホームページというのは、その企業を県外にアナウンスできる多くの情報が盛り込め、取引とか委託をする十分な動機付けになり、ルートの強いツール、武器にもなります。コンテンツ事業者は、その見せ方とか企業の見える化にも関与できる、関われると思います。

<以上>